

順位表 8/18現在
基本 24試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	大宮	56p	+27	43	16	A●
2	沼津	43p	+17	41	24	H● A●
3	今治	43p	+7	33	26	A○
4	富山	39p	+9	27	18	H△
5	北九州	39p	+7	23	16	H●
6	金沢	39p	+4	38	34	A△
7	相模原	36p	+5	24	19	A△
8	松本	35p	+7	37	30	A○
9	FC大阪	34p	+5	24	19	A△
10	福島	33p	+9	36	27	H○
11	八戸	33p	+2	24	22	H● A●
12	琉球	33p	-4	30	34	H△
13	岐阜	30p	-2	34	36	---
14	長野	28p	-5	36	41	A●
15	YS横浜	26p	-10	20	30	A○
16	奈良	25p	-5	33	38	A● H△
17	鳥取	25p	-15	24	39	A○ H●
18	讃岐	22p	-7	22	29	H○
19	宮崎	16p	-18	21	39	H● A○
20	岩手	14p	-33	15	48	H○

次回HomeGame

第26節 vs.松本山雅

8/31(土) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10分

★

アミカ

ドミー
イン

+

JR
岐阜駅

通算対戦成績	全 9 試合 (J3 : 9 試合) 岐阜4勝 / YS横浜3勝 / 2分け Jリーグ岐阜ホーム戦 : 2勝0分2敗			
直近の対戦結果	2024/06/15 J3 - 17節 @ニッパツ YS横浜 1-2 岐阜 得点者:田口裕也,粟飯原尚平			
ここ 3試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/08/17 J3 - 24節@プラスタ 八戸 4-1 岐阜	YS横浜	2024/08/17 J3 - 24節@ニッパツ YS横浜 1-2 讃岐
		2024/07/28 J3 - 23節@長良川 岐阜 0-1 鳥取		2024/07/27 J3 - 23節@ニッパツ YS横浜 1-1 八戸
		2024/07/20 J3 - 22節@愛鷹 沼津 2-1 岐阜		2024/07/20 J3 - 22節@A x i s 鳥取 1-1 YS横浜

●今季もシーズンが進むにつれて、徐々に調子を落としてしまい、勝てなくなってしまうFC岐阜。7/28(日)第23節・ホーム鳥取戦では、試合の序盤には優勢に立つものの先制点を奪えずにいと、自陣でのミスから失点してしまい、前半を折り返す。後半に同点に追いつくため攻勢を強める岐阜だったが、ゴールは遠く、0-1で敗戦。これでリーグでのホーム戦8試合未勝利、中断期間前を連敗で終えることとなってしまった。そして3週間の中断期間を挟み、迎えた8/17(土)第24節・アウェイ八戸戦。岐阜は序盤から八戸の激しいプレスに苦しみ、ボールを前線に運べないばかりか、ボールを奪われてカウンターを浴び、失点を重ねてしまう。4失点を重ねた後、#17 田口裕也が1点を返して一矢報いたが、1-4の大量失点で敗戦。3連敗を喫することとなってしまった。

この2試合の結果、2連敗した岐阜の順位は11位から13位に下降。八戸戦で大量失点したため、得失点差もマイナスになってしまった。上位チームを見ると、3位に後退していた沼津が再び2位(=J2自動昇格枠)に浮上し、勝点43で並んだ今治が3位。そして首位・大宮は2位との勝点差を13とさらに引き離している。その後には、勝点39の3チームが6位(=プレーオフ出場圏)までを占めている状況だ。現時点でのプレーオフ出場圏争いは、その6位・金沢との勝点差6以内の12位・琉球までが有効射程に入っていると見るべきだろう。残念ながら、岐阜は勝点差9と引き離されてしまっている。2024シーズンのJ3は残り12試合。これからの残り試合で、1試合あたり勝点2のペースで勝点を積み上げなければ、プレーオフ出場圏内に入ることは難しい。しかし、遠い目標だけを見ては焦るばかりだ。まずは、今日の試合を最後まで必死に戦って勝利して、少しずつ順位を上げてゆくことを意識する必要があるだろう。

また、7/8(月)から8/21(水)の間に開いている今季の第2ウインドー(登録期間)では、引き続き、7/24(水)に#41中山開帆がJ2・水戸から、7/26(金)に#28水野泰輔がJ2・藤枝から、8/5(月)に#20林祥太郎がFC徳島(地域L)に、そして8/8(木)に#65西堂久俊がJ1・FC東京から、それぞれ期限付き移籍することが発表された。そして最終日の8/21(水)には、J1・神戸から#37寺阪尚悟が育成型期限付き移籍で加入すること、今シーズン11得点を挙げていた#17田口裕也が、J3・金沢に完全移籍することが発表された。移籍には例外があるものの、原則ではこのメンバーで今季は残りの試合を戦い抜くことになる。さて、今節の対戦相手は、Y.S.C.C.横浜(以下「YS横浜」)だ。昨季は12位に終わったが、昨季途中から指揮を執った倉貫一毅監督が今季も続投する。選手の補強は最小限に抑えられており、現在は15位と苦戦が続いているが、直近5試合の成績は1勝3分1敗・7得点7失点。直近5試合の成績が1勝1分3敗・4得点8失点の岐阜よりも調子が良いチームと言えるだろう。YS横浜との通算対戦成績は、4勝2分3敗・14得点9失点。昨季のホーム戦・5/3(祝)第9節は、2点差を追い付かず1-2で敗戦。そして今季前半のアウェイ戦・6/15(土)第17節は、#17田口裕也のゴールで先制するが追いつかれ、後半最終盤に#24粟飯原尚平の決勝点で勝ち越し。苦しみながら10試合振りの勝利を掴んだ試合だった。現在3連敗中と不調に苦しんでいる岐阜は再び、この試合に勝利することで復調の糸口を見つけたいところだ。横浜の最も警戒すべき選手には、現在4ゴールの#7菊谷篤資を挙げる。直近5試合で2ゴール、そして前回対戦でも強烈なミドルシュートを決められている。また、岐阜に在籍していたGK#31岡本享也(2018~2022年)は、現在YS横浜の守護神の座にいる。凱旋は嬉しいことだが、今節だけは活躍させる訳にはいかない。一方の岐阜は、先述した#24粟飯原の活躍に期待したいところだ。また、前節に大量失点した上に#4甲斐健太郎が累積警告で出場停止という状況なので、どのように守備の立て直しを図るのか、天野賢一監督(暫定)の采配にも注目したい。

3週間の中断期間を挟んでいるものの、3/24(日)以来、ホーム・長良川で8試合・5か月間未勝利、そして3連敗中と不調に苦しむ岐阜。やはりJリーグがプロスポーツである以上、ホーム戦で勝利しないとサポーターの熱気・盛り上がりにも欠けるし、クラブの営業にも悪影響を及ぼす。一方で、チームが苦しい状況だからこそ、サポーターの声援・ホームの利を活かして、選手たちの背中を後押ししよう。そして今節こそは、「HYPER CHANT」を、このホーム・長良川に響かせよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第23節】岐阜0-1鳥取

●ヌルッと相手の術中にハマってしまったゲームでしたね。今思えば、立ち上がり鳥取が緩いように見えたのは、暑さを考慮して抑え気味に入っていたんだらうなど。で、後半勝負のつもりでいたら、前半のうちに1点取れてこんな僥倖なことではない。

試合後のゴール裏でのやり取り、ホームで勝てないシライつくのは分からなくもない。でも選手をキレさせるような暴言や野次を飛ばすような人はサポーターじゃないよ、自分の感情をぶつけてるだけ。

これで中断期間に突入。何とか好転してくれることを願いつつ。(岐阜の誇り)

●リーグ中断前の最後の試合しかもホーム戦。7試合未勝利のホームで、今度こそは勝利したい。しかも相手はその時点で17位、11試合未勝利の鳥取。これは油断しなければ岐阜が勝てるはずだと、少なくとも岐阜側の人間は思ったと思うんですよ。それなのに……(溜息)。実際、試合は序盤から岐阜が優位にボールを支配していたと思うし、鳥取のゴール前にも迫っていた。シュートも撃てていたし、このまま試合を攻勢に進めれば、得点も入るだろうと……それがチームの(あるいは選手の)“油断”に繋がってしまったように思う。自陣でのビルドアップの途中でボールを奪われてゴール前まで運ばれて、思い切りシュートを撃たれて失点してしまう。そして、「このまま自分たちのサッカーをやって、攻撃を続ければ得点できる」という“油断”もあったんじゃないだろうか。だけど、自分たちのサッカー『だけ』を重視した戦術って、現代サッカーで成立するんだらうか?少なくともJ1クラスでもない僕らのチームが?と僕は感じてしまう。相手の戦術の特性を把握して、全てじゃないけれど対策を採らないと、厳しいリーグ戦を勝ち抜くことなんてできないんじゃないのだから?先制した(そして11試合未勝利だった)鳥取は必死に守備を固めてきたし、失点してるんだから多少はリスクを懸けてでも積極的にプレーしなくちゃいけない場面で、消極的な後ろ向きの安全なプレーを選択する場面が、この試合でも見られたように思う。惜しいシーンはあった。でも、ゴールが奪えない。なんか、チームの意識が噛み合っていない。そうやって時間が過ぎてゆき、そのまま0-1で試合終了。ここまでホーム戦で下位チームにも勝てずにいると、なにかチームとして大きな構造的(環境的?)欠点があるんじゃないかと思えてくる。それが僕の杞憂であることを願っている。(ささたく)

●スタメン発表の時には、「もしかして、システムを変えるのかな?」とか思ったんだけど、この試合もソレ以前の問題が解決されてなかったね。

鳥取もずいぶん勝利から遠ざかっていたみたいだけど、先制点をきっちり守り切った。いわゆる『虎の子の一点』ってヤツだな。ただ、鳥取の守備もそれほど堅固には見えなかった。ソレを崩し切れないウチの攻撃に問題があるんだらうね。選手達は全力で戦ってくれたと思う。それだけに辛い。終了間際のコースケのシュート。アレも3月なら決まっていたんだらうなあ。

試合後に思わず言いたくなることもあるだろう。言うか、言わないかはそれぞれで。ただ、それでもスタンドから出来るコトは出場している選手の後押しだけ。結果が出る前のため息はいらぬ。それくらいなら、自分にも出来る。出来るコトからやっていきたい。(ぐん)

●開始早々から鳥取がゆるゆる、でも前線4人はしっかりとチェックをかけて来た。その罨にひょろっとかかって失点。そしたら鳥取は全員がきっちり下がってロングカウンターへの準備。相手のパッケージに喜んでひっかかっていく岐阜の攻撃。タイムボカンですか(苦笑)。

名前を出すけど、酷かったのが古巣対決となったユーヤ。なんであんなに「相手からファールをもらおう」と頑張ったん

だらうね。前半で3回も審判にアピールしてたし、前半終了で引き上げる時にも審判に絡んでいた。ああいうのは、とっとと異議でカード出した方がいいよ、もう。

もう一人、悪目立ちしていたのが西谷。「周囲と合わないとは、こういうことさ」というのを絵のようにというより絵より鮮やかにピッチ上に描き出してくれた。出すのか、打つのか、ドリで持って行くのか。以前は岐阜にいていまは浦和にいる某SBのように「上手い選手と一緒にプレーすることで良さが出る」タイプなのかもしれない。

でも、この試合で特筆しておきたいのは、試合終了時のメインスタンドの数多くのお客さんから「悔しい」って気持ちが噴き出していなかったこと。皆さん、不甲斐ない試合内容と情けない試合結果にはもう『慣れた』ようでした。

シーパスをお持ちの皆さんは、それでもホーム戦に来てくれるでしょう。おカネ払っちゃってますし、もう行かない!と見送って『万が一(ここ重要)』岐阜が勝っちゃったら、それこそ「悔しい」じゃないですか。たぶん、ぼくもそんなシーパス保持者の1人として、長良川には行くんだらうな……と思います。(吉田鑄造)

【第24節】八戸4-1岐阜

●約3週間の中断期間。さぞや選手たちは激しい練習を積み重ねて、見違えるようなチームにと、思ってたんですが……(溜息)。逆に八戸の方が、さらなる激しい練習を積んできたようで、序盤からほぼオールコートで激しいプレス。それをビルドアップの段階から受けた岐阜の選手たちは、かわせずにボールを失ってしまう。自分でボールを運んでプレスを剥がせば良いのに、パスすることに拘って自滅しているようにも見えた。そして八戸はボールを奪うと素早くカウンター攻撃に入り、岐阜のゴール前に複数で走り込み、思い切りよくシュートを撃つ。それに対応できない岐阜の選手たち。八戸の選手の方が、外見もがっちりした体つきで、相当にフィジカルを耐え上げているように見えた。いくらパス重視のサッカーを標榜するんだとしても、このプレス(あるいはデュエル)に耐えられないんじゃない、『自分たちのサッカー』なんてできない。というか、今のウチの選手たちで、このJ3で『自分たちのサッカー』ができるのか?という根本的な疑問さえ浮かんでしまった。やりたいサッカーが『わかる』のと『できる』のは違う。できるサッカーを(少しずつアップデートしながら)実行し続けないと、いつまで経っても、シーズン後半になると相手に対策を採られて負け続けてしまうチームになってしまうんじゃないか。総シュート数が4本なんていう、絶望的な負け試合を見ながら、そんな絶望的な思いに捕らわれてしまいました。(ささたく)

●まずは、台風の影響もある中、そして、帰省の時期で移動も大変な中、プラスまで出かけた現地組に心からの敬意と感謝の意を評します。ありがとうございました。お疲れ様でした。

しかし……。それにしても、残念な試合だった。自分がプラスにいたら前半終わった時点で帰るコトを検討していたやもしれん。長らく、このクラブにつきあってきたけど、こんな気持ちになったのは、いつぞやの、下関で開催された山口戦以来。いわんや、現地組の心境たるや……。まあ、シャトルバスは、まだ準備がされてないんだらうし、タクシーもいないから、車がなければ引き上げるコトは出来なかったと思うけどね(苦笑)。

中断期間があって、試すことも高めることも出来たんじゃないのかな?でも、ウチだけに中断期間があったワケじゃないからね。今後も厳しい状況が続いていくんだらうな。試合後のコメントによれば、天野サンが指揮を取ってる間は今のスタイルを変えることはない。ソレは理解した。だから、今後は、補強メンバーを含めて精度を上げていくだけだというコト。それなら、残留は出来そうな気がする。がんばって

ほしい。でも、こんだけ、選手、スタッフが変わっても、毎年、同じように停滞下降していくのは、やっぱり、選手のコンディショニングも含めた環境に問題があるのかなあ？原因説明は急務だと思う。(ぐん)

●正直言いますね。藤枝から水野泰輔が戻ってくると知った時に『ためいき』が出た。これだけ「動けないのが問題」のチームに、この夏場に、ベテランのMFを獲得した意図がまったくわからなかったの。

そして、この八戸戦ではスタメンのボランチがその水野と庄司。ああ、なるほど。選手が動かなくてもパスがつながって相手が崩れる(相手を崩す……ではない)、綺麗で美しいサッカーをやりたくて、でも全然出来なくて、結局は泥に塗(まみ)れて負けるサッカー。それが岐阜のやりたいスタイル。やっぱり、タイムボカンじゃないか(笑)。2失点目、カイケンからのパスの直前に水野がボールから目線を切ってパスを受け損ね、そこからカウンターを受け失点。絶望と失望を足してから2倍してさらに純粋培養したようなシーンだった。

1-4と美しく粉碎された試合後の囲み取材で、天野暫定監督が「戦術的な大きなところのやり方が間違っているとは思っていない」と述べていたことでゲンナリと絶望したサポは多かったと思う。もちろん、ぼくもそう。でも、指揮官がそうした考えを持っているのだから、チームが変わるはずがない。これからは「選手が動かなくてもパスがつながって相手が崩れる(相手を崩す……ではない)、綺麗で美しいサッカーをやりたくて、でも全然出来なくて、結局は泥に塗(まみ)れて負けるサッカー」をホームでもアウェーでもすることだろう。実際のところ、高い志を持ってそうしたサッカーを志向すること自体は間違っていない。「いまの岐阜の選手たちでは出来ない、出来るようになるまで相当の(それもかなり相当の)時間がかかる」という部分を考えなければいいのだ。いまは勝てないけれど、いずれ綺麗で美しいサッカーが出来るようになるでしょう。きっと、そうなります。それまで待っていてください。応援よろしくお願いします。壮大な実験に付き合っている、付き合い合われてることだ。

だから、試合を観る……じゃないな、「長良川に行く」喜びは自分たちで、別のところで見つけるのがいいかもしれない。ステージでダンス・パフォーマンスやトークショーを愉しむのでも、屋台村の旨いグルメでも、試合前の仲間との語りだけでもいい。いまのFC岐阜はエンターテイメントの一つ「プロスポーツ興行」のコンテンツとして完璧に崩壊しているけれど、クラブが、チームの指揮官がエンターテイメントではなくアートを志向しているのだから、仕方がない。エンターテイメントはスタジアムの外にちゃんと存在している。ありがたいよね。(吉田鑄造)

【U-15】クラブユース選手権 快進撃で準優勝!!

●日本クラブユースサッカー選手権(U-15)は、中学生世代のクラブチーム(Jクラブのジュニアユースチームや地域のU-15世代対象のサッカークラブ)の全国大会です。この大会の出身者の例として8年前の同大会で選ばれた32人の優秀選手を視てみると、細谷真大(柏)、植中朝日(横浜FM)、藤尾翔太(町田)、西尾隆矢(C大阪)、木村誠二(鳥栖)といったパリ五輪メンバーが少なからず含まれていて、この舞台を契機に世界に羽ばたいていく選手も少なくないことの現れかと思えます。

FC岐阜U-15は3年前の第36回大会に東海第6代表として初出場(FC岐阜アカデミーのチームが全国大会に出るのは全世代で初めて)。この時は1分2敗でグループステージ敗退となりました。

しかし、今年は東海予選を1位で通過。グループステージは4チーム総当たりのリーグ戦で1勝2分の勝ち点5で1位通過というしぶとさ(勝ち点5でグループ1位抜けは横河武蔵野と岐阜だけ)。ノックアウト・ステージでは松本山雅、ガンバ大阪、セレッソ大阪、FC東京むさしとJクラブのジュニアユース勢を相手に4戦中PK勝ちが2つとこれまたしぶとい勝ち上がりで決勝まで進みました。決勝では川崎フロンターレ生田に1-4で敗れたものの、見事に準優勝となりました。FC岐阜U-15は「ファイナリストの誇り」と「もっと成長して『チャンピオンになる』という目標」の2つを、胸を張って持ち帰ってほしい。今後の成長に大いに期待です。

なお、FC岐阜のチームが全国大会で2位以内となったのは、トップチームの2006年「全国地域リーグ決勝大会」の『2位』以来ですが、同大会はリーグ戦形式なので、『全国大会の決勝戦(ファイナル)』に進出したのは今回のU-15チームが初めてとなります。

※参考:「FC岐阜のチーム」ではないですが、第68回国民体育大会(2013年・多摩国体)の『岐阜県チーム』は全員が「FC岐阜SECOND」から選出され、成年男子の部で優勝を果たしています。(吉田鑄造)

鳥取戦以降の移籍情報……

●J2・藤枝から水野泰輔が8年ぶりに岐阜復帰。J1・FC東京から西堂久俊が、J1・神戸から寺阪尚悟が期限付き加入(寺阪は育成型)。一方、林祥太郎が四国リーグ・FC徳島(ここんこリーグを連覇している強豪)へ期限付き移籍。

そして驚いたのが田口裕也のJ3・金沢への完全移籍だ。チームのトップスコアラーを同カテのライバルに出すという判断について、クラブにいろいろ物申したい方も多だろう。まあ、でもクラブが戦力外にしたんじゃないのなら、しょうがないかな。昔の歌謡曲で喩えれば「寝たフリしてる間に出ていってくれ」ってところかと。岐阜のJ2昇格なんざ、もうとっくに遠のいているのだし、ユーヤが残るか出ていくかで変わるもんでもないでしょうけど、金沢にとっては違うのでしょうか。完全移籍だから、今季の岐阜vs金沢@長良川に彼は出場出来る。もし出てくるなら、『盛大に』お迎えして差しあげたいところだ(笑)。本人だって、あたたかい拍手で迎えられたら「え、俺こんなヌルいところにいたの?」ってびっくりしちゃうんじゃないかしら、なあんて(笑)。

ユーヤの件はともかく(笑)、加入がすべて期限付きであるところから、どうしても『補強』じゃなくて『補充』?という感想になってしまうのも、やむなしか。来てくれた選手は、FC岐阜というチームのため、そして何より自分自身の価値を上げるためにがんばってほしい。(吉田鑄造)